

令和2年10月9日

南の風 366

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

ドリブルのトリプルスレットポジションについてです。

世界的な流れとして、現在ハーフコートオフェンスはピック&ロールが主流となっています。と言うことは、ドリブルからのプレーの選択肢が増えたということです。そこで注目されるのが、ドリブルのトリプルスレットポジションです。

このスキルに触れる前に、ピック&ロールと言えば忘れてはいけない選手がいます。

それは、1990年代にNBAのユタジャズで一世を風靡した、カールマローンとジョンストックトンの2人です。年配のNBAファンなら、知らない方はいないと思います。

ジェリーストーンヘッドコーチの下、2人の超スーパースターのピック&ロールは圧巻でした。「ここで決めてほしい！」とファンやベンチが願った時、確実に得点を上げるプレーでした。

この2人のピック&ロールは大変シンプルなもので、センターのマローンがガードのストックトンのディフェンスにピックに行き、ロールして合わせミスマッチを誘発してシュートまで持ち込むというものでした。ピック&ロールの2on2から、他の3人に合わせるプレーはあまり見られなかったと思います。逆を言えば、マローンとストックトンの個人スキルが断トツに突出していたからで、2人を止めることは至難の業だったのです。

因みにマローンとストックトンが擁したユタジャズは、1996~1997と1997~1998と2年連続でNBAファイナルに進出しますが、2回ともジョーダン率いるシカゴブルズに惜敗しています。

マローンはファイナルに進出した2年間、連続してシーズン MVP に輝いています。またマローンは「メールマン」（郵便配達員：シュートをゴールに運ぶという意味）という愛称で親しまれ、地元のファンに愛されました。

一方ストックトンは歴代最多のアシスト記録とスチール記録を残した名ポイントガードで、他チームでしのぎを削った、マジックジョンソンやチャールズバークレー、ゲイリーペイトンから、「間違いなくNBAのNO.1ポイントガードだ」と絶賛された選手でした。そして、NBAでは少数派の白人のスーパースターでもありました。また、ストックトンはゴンザガ大出身で八村 塁の大先輩でもあります。

2人とも1992年のバルセロナオリンピックの、初代ドリームチームのメンバーとして金メダル獲得に貢献しました。1996年のアトランタオリンピックにも、再びドリームチームのメンバーとして参加し、見事2大会連続で金メダルに輝きました。

話を戻します。ドリブルのトリプルスレットポジションは、前号で紹介した通りです。もう少し掘り下げて説明します。

ドリブルをして床から手のひらに戻る位置を、常に一定することがドリブルのトリプルスレットポジションです。これによってシュート、パス、ドリブル続行が選択できるのです。

プルアップのジャンプシュートは、ヘルプサイドのディフェンスがドライブを阻止しようとした時に、強いドリブルからボールが浮き上がる力を利用して打つシュートです。次号にします。